

年 組 名前

タマネギ つなぐ恵み

第1部 日本一の現在地

干ばつや豪雨肥大を阻害

② 変わる気候

タマネギの生育には、夏の暑さと雨量が大きく影響する。ビニールハウスで育ち、畑に移植されたタマネギの苗はまず、上に葉を伸ばすが、暑くなると上に伸びない「鱗葉」が増える。収穫されるタマネギはこの鱗葉が重なり合い、球状になったもの。上に伸びない葉が倒れる「倒伏」は、鱗葉がでなくなつたサインとなる。25年は記録的な猛暑と少雨が、タマネギの肥大を妨げた。

積算温度（日平均気温の合計）は565.5度で、平均値（91〜20年）を101.6度も上回った。その一方、積算降水量は56.5ミリで、平均値（同）を10.2ミリ下回った。網走農業改良普及センター（北見）の相場勝・主任普及指導員によると、25年は猛暑の影響で、葉が上に伸びるのが早く、十分に玉が肥大する前に倒伏した。タマネギ

は根が浅いため、養分を吸収しにくい。乾燥にも弱く、昨夏は雨の降らない日が長期間続いたこともあり、生育への影響は大きかった。こうした「極端気象」は災害級の干ばつ、集中豪雨をもたらす。北見市の積算降水量（6月）がわずかに32.5ミリだった21年の収穫量は17万2200トンで、前年比3割減の

記録的不作に。2020年代はほぼ毎年、ひょうで葉が折れたり、豪雨で畑が冠水する被害が生じている。ハード対策が急務だが、国の公共事業予算は頭打ちで、すでに着工している用水路の完成も見通せない。

管内では現在、北見二期（北見）、網走川中央（美幌）の2地区で用水路を造成中。網走開建農業整備課は「農業用水の安定供給は国の責務だと感じる」とするが、北見二期の通水には早くても3年、網走川中央も通水したのは一部で、すべての用水路がいつ完成するかは「未定」という。

網走川中央の促進期成会会長でもある伊藤さんも、用水路に望みをつなぐ。「用水路の有無で、収量が明暗が分かれた。一日も早く、水をまけるようにしてほしい」

脱炭素にも注力 地球規模の気候変動に對し、生産地も出荷までのあらゆるステージで、

二酸化炭素（CO₂）の排出削減に力を入れる。きたみらい農協は22年秋からCO₂を吸着する土壌改良材「バイオ炭」を導入し、25年には44畧の畑で排出量を27トも減らした。

このほか、出荷するタマネギの一部はビニール袋を植物由来のバイオプラスチックに変更、廃棄されていたタマネギの外皮を暖房に使っている。生産地からも「持続可能な社会への貢献を」（同農協）との思いからだ。

11年から販売する「環」は環境への配慮を価値とするブランドで、化学肥料、農薬の使用回数も抑えている。Aさん（51）北見市豊地は、この「環」の畑にバイオ炭を使っている。「環には『脱炭素時代』ならではの価値がある。長年の経験も試され、やりがいがありますよ」とAさん。日本一の生産地は一步步、そしてしなやかに「変わる気候」と闘う。

（佐藤菜々子、国乗敦子）



北見産タマネギの収量と6月積算降水量の推移
※農林水産省、気象庁の資料を元に作成



オホーツク管内の近年の作況

2014年	一部の地域では、強風で葉に被害を与えたが5月の降雨で初期生育が進み収穫期も好天に恵まれた
17年	6月は多雨傾向で生育が早く進んだが、8月中旬以降の台風と大雨で農作業に遅れや病気が発生
19年	7月下旬〜8月上旬を中心に少雨傾向だったため、肥大が進まなかった
21年	6〜7月の高温少雨で収量は平年を下回り、品質も低下



道新でワークシート

年 組 名前

- (1) タマネギの生育には何と何が大きく影響(えいきょう)しますか。
記事を読んで()に当てはまる言葉を答えましょう。

()と()が大きく影響する。

- (2) タマネギの収穫量(しゅうかくりょう)と6月の降水量(こうすいりょう)にはどのような関係があると言えますか。
「北見産タマネギの収穫と6月降水量の推移(すいい)」のグラフを見て答えましょう。

- (3) 地球規模(きぼ)の気候変動(きこうへんどう)に対し、二酸化炭素(にさんかたんそ)の排出(はいしゅつ)を減らすために、生産地(せいさんち)ではどのような取り組み(とりくみ)がされていますか。
記事を読んで答えましょう。

- (4) 生産地(せいさんち)では、二酸化炭素(にさんかたんそ)の排出(はいしゅつ)を減らすために様々な活動(かどう)をしています。
記事を読んで、自分にできることを考え、書きましょう。